

歯科衛生士必携のバイブル
 一元厚生労働省医政局歯科保健課長による
 やさしく・ていねい、そして
 “わかりやすい” 歯科診療報酬解説書—



歯科衛生士のための

歯科診療報酬入門 2018-2019

公益社団法人日本歯科衛生士会 監修/鳥山佳則・
 石井拓男・武井典子・金澤紀子・吉田直美 編集

B5判/262頁 定価 3,996円：本体 3,700円+税
 医歯薬出版（2018年5月）

東京医科歯科大学
 大学院医歯学総合研究科
 生涯口腔保健衛生学分野 教授
 評・荒川真一（歯科医師）



現在、歯科界以外からも歯科衛生士の重要性が認識され、歯科診療所のみならず病院、介護施設で活躍している。歯科衛生士業務の専門性とその法的な理解が深まり、1990年の診療報酬改定で、点数表にはじめて「歯科衛生士」が記され、1996年にはついに「歯科衛生士による実地指導加算」が独立した診療科目となった。さらに、2012年には「周術期口腔機能管理」が収載、2018年に改定された。超高齢社会を反映して、介護保険報酬においても「居宅療養管理指導」が請求可能となった。

上記の状況下、2017年に初学者を対象として診療報酬についての基本ルールや各項目に対して「やさしく」「ていねい」をキーワードに入門書として発刊され、今回の平成30年度診療

報酬改定に伴い2018-2019年版が上梓された。今回は特に変更の大きかった在宅医療、算定ルールが難解な周術期等口腔機能管理について「わかりやすく」をモットーに編集されたとのことである。総論計5章のうち4章、各論に至ってはすべての項目を鳥山佳則先生が執筆されており、その労力は大変なものであったことは想像に難くないが、これは総論・各論ともに同一の思考経路で記述されていることになる。難解な算定ルールについて本書に記された道標・経路をたどれば目的地（本質的な理解）に自然に到達し、さらに実務に活かせるのである。大学卒業後厚生省（当時）に入省され、医政局歯科保健課長や保険局歯科医療管理官などを歴任された鳥山先生だからこそ成し得た「偉業」というべきものと考えている。

日本歯科医師会発行歯科診療報酬点数早見表は便利ではあるが、特に初学者にとっては「木を見て森を見ず」ならず、「森を見て木が見えず」状態になっているのではなかろうか。本書は「歯科衛生士のための」と付記があるように歯科衛生士がかかわる業務が焦点となっている。総論部分では歯科診療報酬の philosophy および基本的ルールが記されており、初学者のみならずベテランの歯科衛生士にとっても必読といえる。「Ⅶ事例」においては、症例ごとに実際のフローチャート、各診療日の治療内容、歯科衛生士業務記録、算定内容が記されており、初学者にはもちろんであるが、ベテランの歯科衛生士にとってもいま一度整理し自らの診療に活かし、かつ新人教育にも大いに役に立つと考える。さらに点数設定の目的、換言すれば社会からどのような歯科衛生士が求められているか、などを考えることで、各人の将来へのキャリアアップを図ることに大いに役立つと思われ、歯科衛生士養成教育機関での利用も強く勧めたい。